

発行／坂城町公民館 発行人／柄澤 俊彦 編集／広報部 印刷所／(株)シーデンス
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町中之条2468 文化センター内
(TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722)



❖主な内容❖

ふるさと探訪 PART119	2～3 P
公民館事業スタート	4 P
更埴地区短詩型文学祭入賞作品	5 P
行事、お知らせ、館説 開畝	6～8 P

第54回元旦マラソン大会 (写真上段)
第58回席書大会・書初展 (写真下段)
(関連記事 6P)

ふるさと探訪

坂城でたどる太平洋戦争

1945 → 2025
戦後 80 年
特集
Vol.1

2025 年は、太平洋戦争の終戦から 80 年となる節目の年です。今回は、坂城町に残る戦争の記憶を探訪します。

第二次世界大戦と太平洋戦争

最初に、第二次世界大戦と太平洋戦争について見てみましょう。

第二次世界大戦は、1939（昭和14）年に当時のドイツがポーランドに侵攻したことから始まった戦争です。多くの国が参戦し、ヨーロッパを始め様々な地域で戦闘が起こりました。このうち、アジア・太平洋方面で起こった、日本と中国・アメリカ・イギリス・オランダなどの連合軍との戦争が太平洋戦争です。

1941（昭和16）年12月8日、日本のハワイ真珠湾攻撃とマレー半島上陸によって太平洋戦争は開戦しました。当初、戦況は日本に有利でしたが、1942（昭和17）年のミッドウェー海戦から連合軍の反撃が始まります。以降、日本は敗戦を重ねていきました。

1943（昭和18）年、兵力不足を補うために学徒動員が決定されます。これにより、それまで徴兵を猶

予されていた大学生や旧専門学校生が、卒業を繰り上げたり学業を中断したりして戦地へと赴くことになりました。

1944（昭和19）年、日本軍は重要な拠点の一つであったサイパン島を失います。同時に、マリアナ沖海戦で日本海軍の連合艦隊がアメリカ軍に対して大敗北を喫しました。この地域の制空権・制海権を得たアメリカ軍は、日本本土への空襲を開始します。空襲の被害を逃れるため、日本では都市部の学童が地方へ集団で疎開する学童疎開が始まりました。

本土への攻撃は、翌1945（昭和20）年にかけてさらに激しくなっていく、大都市だけでなく地方も空襲によって大きな被害を受けるようになりました。幸い、坂城地域に大きな空襲はありませんでしたが、上田市や長野市では空襲被害が記録されています。4月には沖縄にアメリカ軍が

上陸し、民間人を巻き込んで激しい地上戦となりました。そして、8月6日に広島、同9日に長崎に原子爆弾が投下されます。8月15日に日本はポツダム宣言を受諾、9月2日に降伏文書に署名し、太平洋戦争は終結しました。

戦時下の生活

さて、太平洋戦争下の日本国内はどのような状況だったのでしょうか。

太平洋戦争が始まったとき、日本は中国との戦争（日中戦争）のさなかでした。国民は戦争を支持し協力するべきである、という国民精神総動員運動が推し進められ、言論や思想も統制されていきました。また、戦争遂行のために軍需品の生産が優先されたことで、生活物資も不足しがちでした。太平洋戦争の開戦前に、東京、大阪、名古屋などの大都市部では綿製品やガソリン、砂糖、マッチ、米などが配給制となっています。人々

の生活にはすでに様々な制限が及んでいたのです。

こうした制限や物資の不足は、太平洋戦争が始まってからますます厳しいものになっていきました。祝い事や娯楽を自粛する動きが広がり、節約・倹約が励行されました。人手不足も深刻で、女性や子供たちも軍需工場に勤労奉仕に行ったり、食料生産のため農作業に従事することになりました。



現在の坂城駅
(坂城近隣の町村で召集された兵士は、坂城駅から列車に乗って出征して行きました。)

戦争と教育

戦時下では、学校教育も大きな影響を受けました。

1941（昭和16）年、明治期に各地に作られた尋常小学校が国民学校へと再編成されます。国民学校では、心身を鍛えて国と天皇のために尽くすことが求められました。授業は、時局教育や団体訓練、科学、銃剣訓練や看護訓練といった戦争に役立つものが重視されました。教科書の内容も戦争や兵士の活躍を題材にしたものが多く、いわゆる「軍国教育」が推し進められたのです。

こうした情勢は、坂城でも例外ではありませんでした。当時の坂城は、坂城町と中之条村、南条村、村上村の1町3村で、それぞれ



格致学校跡地に建てられた記念碑
(移築前は、国道18号線の坂城IC入口の信号を入ったところにありました。)



格致学校跡地周辺
(現在は集合住宅が建っています。校舎の東側が一段高くなっており、この土手を利用して防空壕がつくられていたそうです。)

に尋常小学校が置かれていましたが、これらは坂城国民学校、中之条国民学校、南条国民学校、村上国民学校として新たに発足することになりました。各学校に残る記録には、座学のほかに木出しや草刈りなどの勤労奉仕、団体訓練、鍛錬遠足といった奉仕活動や行事が見られます。また、空襲に備えた防空訓練もありました。中之条国民学校（旧格致学校）では、校舎の東側に防空壕が作られ、空襲の際にはそこへ逃げるよう訓練が行われたそうです。



坂城小学校に建てられた
学童疎開の碑

このほかに、出征する兵士の見送りや、戦地へ送る慰問品の作成、戦死した兵士の出迎えも行われました。

学童疎開

学童疎開が始まると、長野県は積極的に疎開児童の受け入れに協力しました。坂城では、坂城・南条・村上の各国民学校で、東京都の豊島区や足立区から疎開してきた児童たちを受け入れられました。親元を離れての疎開生活は、決して楽なものではありませんでしたが、疎開児童と地元住民との交流も多かったようです。当時疎開していた方々と坂城町の交流は、終戦後も続きました。現在、町内の各小

学校には、学童疎開の記憶を後世に伝える『学童疎開の碑』が建てられています。

物資の不足を補う技術

土木遺産にも認定されている昭和橋も、実は戦争と無関係ではありません。現在の昭和橋は、ローゼ橋というアーチタイプの橋です。コンクリートで作られているため、コンクリートローゼ橋と呼ばれます。コンクリートによるローゼ橋の設計は、中島武技師によって考案された世界初の技術で



現在の昭和橋

ですが、この技術が生み出された背景には、戦争による鋼材不足がありました。中島技師がこの技術を考案したのは太平洋戦争が始まる前の1933（昭和8）年で、当時からすでに物資不足となっていた日本の状況が窺えます。

終戦と鎮魂

1945（昭和20）年8月15日、日本は終戦を迎えます。戦後しばらくして、各地では犠牲者を悼む碑が建立されました。坂城町内にも、鎮魂碑や招魂碑がいくつも見られます。

終戦から80年の時間が経ちますが、私たちが日ごろ目にする坂城町の風景の中に、戦争の記憶は残されているのです。

（篠井ちひろ）



坂城神社の招魂碑

令和7年度 坂城町公民館事業スタート!

令和7年度の公民館事業がスタートしました。分館役員のみなさん、本館専門部のみなさんを紹介します。

分館役員のみなさん

(敬称略)

分館	分館長	副分館長	文化部長	体育部長	広報部長
鼠宿	南波 拓美	上原 哲夫	斎藤 実	片桐 公一	丸山 辰行
新地	沢崎 茂実	細川 勝好	山本 朗	沢崎 修一	菊田 甫之
金井	宮下 和久	塩入 郁夫	長尾 邦彦	田中 昌樹	池田 敦
入横尾	宮下 和幸	鈴木 邦彦	柳澤 秀幸	山崎 直人	成沢 博文
町横尾	宮下 隆雄	中村 宏幸	館内 盛幸	中沢 裕樹	新井 隆史
泉	和田 芳樹	松坂 夕子	足立ノンカーン	中澤 弘治	嶋田 育代
中之条	保坂 義昭	丸山 浩司 中島 一弥	町田 圭	町田 公平	滝澤 克彦
四ツ屋	甘利 靖之	岸田 幸一	丸山 秀司	林 隆行	林 隆行
戌久保	矢嶋 誠	辰野 淳子	-	小奈 勝利	都筑 寛之
御所沢	滝沢 幸映	塩野入良夫	林 美子	竹内 英樹	大橋あつ子
田町	大塚 雅彦	小林 秀樹	近藤 佳子	今井 幹矩	中島 悠
横町	木下 幸一	宮下 秀陣 清水 肇	石山 美香	桐間 聡	杓掛 一雄
込山	高見澤 洋	神方 昌志	岩浅 和仁	片桐 和也	中沢 則彦
立町	常盤 信彰	前山 康彦 高橋 政輝	宮尾 政規	前山 一隆	畑山哲次郎
旭ヶ丘	荒井 明	北澤 圭介	鳥居 勝三	深井 洋幸	村松 修
南日名	宮原 建男	深井志津男 金子 保典	笠井 良典	春日 敦	笠井 良典
北日名	中沢 忠和	西澤 喜幸 池田 弘文	大屋 学	柳澤 勇雄	小松原勝寿
日名沢	伊藤 利幸	瀧澤 重章	柳沢 和也	田中 賢二	西澤 豊子
大宮	池田 利幸	小宮山正憲	吉崎 博明	布施 五郎	池田 文夫
新町	千野 純一	中澤 弘幸	中井 英光	池田 浩希	中井 英光
坂端	高橋 憲彦	高橋 伴幸	高橋 貴	高橋 祐次	竹中 譲
苅屋原	水出 恒明	千野 修	酒井 美佳	水出 健雄	小出 真司
網掛	高井 資昌	塩野入繁人 宮入 真道	沢崎 泰弘	神田 純一	元島 武文
上五明	北沢 一憲	鈴木 久男 山城 忠則	竹内みゆき	山城 洋平	塚田 洋介
上平	小出 和博	菅原 美佳	小出 裕子	中曾根真由美	大橋 正浩
小網	宮沢 正博	赤池 邦浩	高松 尚武	本道 怜	宮沢 忠臣
月見	星 哲夫	福島 益男	山田友里子	柄澤 英俊	宮下 裕一

本館専門部員のみなさん

専門部は、町公民館の事業をそれぞれ分担して企画立案し、公民館運営の要として活動します。

総務部

町公民館事業全体を検討し、推進します。

部長 高井 資昌 (網掛)
副部長 池田 利幸 (大宮)
宮下 隆雄 (町横尾)
大塚 雅彦 (田町)

文化部

文化事業を企画し、運営します。

部長 竹内みゆき (上五明)
副部長 長尾 邦彦 (金井)
岩浅 和仁 (込山)
鳥居 勝三 (旭ヶ丘)

体育部

健康増進のため体育事業を企画し、運営します。

部長 柳澤 勇雄 (北日名)
副部長 小奈 勝利 (戌久保)
町田 公平 (中之条)
本道 怜 (小網)

広報部

公民館報を編集し、発行します。

部長 宮下 裕一 (月見)
副部長 竹中 譲 (坂端)
丸山 辰行 (鼠宿)
林 隆行 (四ツ屋)

第29回更埴地区

短詩型文学祭表彰式

更埴地区公民館運営協議会(千曲市と坂城町で構成)主催の、第29回更埴地区短詩型文学祭表彰式が開催され、短歌の部、俳句の部、川柳の部、現代詩の部の各賞が決定し、表彰式が行われました。

投稿数合計3,054作品のうち、坂城町の方の更埴地区短詩型文学祭大賞、更埴公民館運営協議会長賞、奨励賞の受賞作品を紹介します。(敬称略)



一般の部

「川柳の部」

◆更埴公民館運営協議会長賞
笑い皺重ねて歩む人生符

小宮山 洋子

「現代詩の部」

◆更埴地区短詩型文学祭大賞
風

小宮山 洋子

過去の風が私の肩でささやいた

君は心配性だね

どんな事があつたとしても、過去の事は
全て終った事だから考えたって仕方ない
んだよ

逝ってしまった人を追い掛けたって
戻っては来ないんだよ

でもね、想い出だけはしっかり抱いて
前へ前へと進んで行くんだよ
子供に言い含めるように言った
未来の風が私に振り返って言った
その通りだよ、空の雲を見てごらん
憂いなどみんな脱ぎ捨てたから

ゆーらりゆーらりと浮いていられるのだから
うね

先の事など誰にも判らないから
あれこれ悩んだって仕方ないのさ
現在が一番大事な時だと自覚したのだから
うね

真っ白で楽しそうな雲を見上げていたら
未来の風は消えてしまった

◆更埴公民館運営協議会長賞
朝に

上原 みち子

眠りと目覚めのあわいで
カラスが鳴いている
それもやけに近くで
うっすら目を開けて見ると
隣の家の屋根の上で叫んでいる
いつものあの電柱のてっぺんではないのか
カラスよ

おまえは知っているのか
不吉な鳥だと呼ばれていることを
魚を焼く匂いが流れてくる
粕に漬けた魚の匂いだ
どこの家だろう

こんな早い時間からもう朝ご飯の用意か

私も起きて魚を焼こうか

野菜の味噌汁

よく漬かったためか漬けの茄子に刻んだ
みょうが

それだけで十分な朝になる

ゆうべ救急車が大きな音で通り過ぎた
と思ったとたん止まった

我が家のはす向かいのお宅の前で

あの家の人はどんな一夜を過ごしたのだ
ろうか

今までより少しだけ

涼しく思える朝に

日常と胸のざわつきが入り混じる

「短歌の部」

「佳作」

塩野入 はる江
小宮山 洋子
西澤 ひろ子

「入選」

井澤 貞子
横田 徳子
柳沢 澄

「俳句の部」

「佳作」

小野 久美子
竹内 文
小西 正枝

「入選」

「現代詩の部」

「佳作」

井澤 貞子
横田 徳子
柳沢 澄

「入選」

「短歌の部」

松林のり子
日詰百合子
米澤 光人

小学生の部

「俳句の部」

◆奨励賞

夕立に追われて走る帰り道
坂城小6年 古畑 ひかり

◆入選

村上小4年 内川 友之

「川柳の部」

◆奨励賞

夏前海すてきな色だ海がすき
南条小4年 神田 心優

◆佳作

坂城小5年 小奈 夏恋
坂城小5年 成澤 岳
坂城小5年 宮下 舞子
村上小6年 宮澤 柚樹

◆入選

坂城小4年 潤賀 栞里
坂城小5年 春日 陽向
南条小4年 山極 星和

◆短歌の部

「入選」

南条小4年 竹内 優心

「現代詩の部」

「佳作」

坂城中2年 浦川 想一郎

中・高生の部

「川柳の部」

「佳作」

近藤 魁風
柳澤 澄
平野 光子
(敬称略)

選者

短歌の部

松林のり子
日詰百合子
米澤 光人

俳句の部

青木く美子
大井さち子
本山 流水

川柳の部

近藤 魁風
柳澤 澄
平野 光子
(敬称略)

現代詩の部

近藤 魁風
柳澤 澄
平野 光子
(敬称略)

第54回 坂城町 元旦マラソン大会

1月1日（水）、第54回坂城町元旦マラソン大会が開催されました。
明るく穏やかな日差しのもと、町内外から400名を超える方が参加しました。
入賞された方を紹介します。（敬称略）
なお、親子ペアについては、順位はありません。

◎6km 一般男子

1位 喜多 真大
2位 吉池 琉仁
3位 星野 誠歩

◎6km 一般女子

1位 菊池 遥奈
2位 成澤 沙喜
3位 橋詰 章子

◎6km 小学生

1位 草野 光生
2位 池田 真人
3位 東條 香樹



◎3km 一般

1位 西澤 賢信
2位 成沢 尚希
3位 山岸 雅弥

◎3km 小学生

1位 成沢 将斗
2位 成澤 里乃
3位 萩原 有斗

◎1.5km 小学生

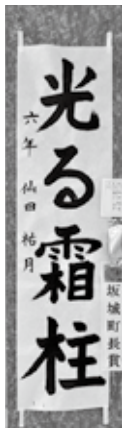
1位 中村 弦輝
2位 林 由泰
3位 中島 大河

第58回 坂城町席書大会・書初展

1月5日（日）～7日（火）、第58回坂城町席書大会・書初展を開催し、約40名が参加されました。
席書大会は5年ぶりの開催となり、初めて参加された方も多い中、筆に思いを込め、力強く筆を走らせていました。
書初展には、47作品が出品され、多くの皆さんに観覧いただきました。
入賞された方を紹介します。（敬称略）

※坂城町長賞

坂城小6年 仙田 祐月



※坂城町教育長賞

村小4年 宮原 咲妃



※坂城町書道協会長賞

南条小4年 天田 汐里

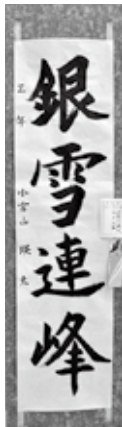


◆金賞

園児 宮下 結衣
園児 西原 希子
村小1年 小山 月菜
高小1年 宮下 莉子
高小1年 栗原 莉来
高小1年 仙田 美月
一般 小出 真生
一般 重倉 嶺

※中学生の部金賞

坂城中3年 小宮山 瑛太



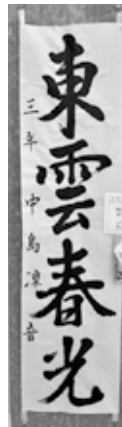
※中学生の部金賞

坂城中3年 真柴 澄伶



※中学生の部金賞

坂城中3年 中島 凜音



◆銀賞

南条小2年 中澤あおい
南条小5年 池田 琢人
坂城小5年 成澤 岳
坂城小6年 岩浅 采実
坂城小2年 瀬在 華菜
村小5年 中澤 心結
村小5年 刈屋 菜月
坂城中1年 重倉 凜

◆銅賞

南条小4年 山岸友梨香
南条小4年 天田 梓沙
坂城小5年 赤地 莉彩
坂城小6年 石倉 由麻
坂城小6年 山口 杏莉
坂城小6年 黒田 樹那
村小3年 小出 侑和
村小3年 刈屋 壹仁
村小3年 中曽根恭子
村小3年 松下 心陽
村小4年 松木 杏奈
村小4年 瀬在 華帆



子ども茶の湯教室

3月1日（土）、文化の館にて、子ども茶の湯教室を開催しました。
公民館講座・茶道（裏千家）の皆様にご協力いただき、小中学生8名が参加されました。

礼の仕方や戸の開け方・閉め方、抹茶の点て方など、茶道の作法を学び、抹茶とお菓子をいただいて、五感を通して茶道の世界を体験しました。



リトミック教室修了式

2月26日（水）、公民館講座・リトミック教室の修了式を開催しました。
公民館長からしつかり修了証を受け取ることができ、この一年で立派に成長した姿を見せてくれました。

これからも色々なことを経験して、たくさん思い出を作ってください。

また、リトミック教室は今年度を持って講座を終了させていただきます。講師の中沢敏江先生におかれましては、31年間と大変長きに渡りご尽力いただきありがとうございます。



心から感謝

西澤 瑞恵

私は、男の子と女の子の双子の母で、娘は生まれつき骨の病気の障害を持っており、身長がとても低いです。

子供が生まれた後、夫の実家がある坂城町に引っ越し、知り合いもなく、障害のある娘が地域に溶け込めるか不安でしたが、年長の時に兄と同じ保育園に入園し、クラスの友達が病気に

ついて理解し、温かく接してくれて、娘を知らない子に對して、私が説明する前に「骨の病気の」と伝え、守ってくれる姿を見た時は、涙が出るほど嬉しかったです。

小学校入学の際は、町長様をはじめ、校長先生や先生方、教育委員会の皆様などには、娘のために手摺りなどの設備を整えていただき、また、クラスの友達にも恵まれ、移動の手伝いなど、日々の生活を支えてくれました。



坂城町に引っ越してきて、本当に良かったと心から思っております。支えてくださった皆様に、改めて心から感謝申し上げます。
次のリレートークは、宇田川雅美さんをお願いします。

公民館文化講座

令和7年度文化講座の受講生を募集します。
全講座が初心者を対象としています。
なお、複数の講座を受講することもできます。

書道	古文書	短歌	茶(表千家)道	茶(裏千家)道	木彫	コーラス
俳句	絵画	郷土料理	季節の土物	詩を楽しむ	盆栽	自主講座

※陶芸講座は、今年度は休講となります。

申込期間 4月3日(木) から11日(金) まで
※年度途中からの受講も可能です。

申込先 坂城町公民館(文化センター内) 82-2069
※申込書は、公民館にあります。
受講料を添えてお申し込みください。

受講料 3,000円

開講式 4月11日(金) 午後7時から
坂城町文化センター 大会議室

※講座の進め方などの打ち合わせを行いますので、必ず出席してください。

※詳しくは、「まなびの玉手箱」をご覧ください。

キッズスポーツ教室

軽運動や楽しいゲームなどで基礎的な身体づくり、コミュニケーションづくりをする講座です。



申込開始 4月8日(火)から

※年度途中からの受講も可能です。

申込先 教育文化課生涯学習係(文化センター内)
82-2069

期日 5月7日(水)から翌年3月4日(水) ※計30回

会場 坂城町文化センター 体育館

指導者 長野体育指導センター 指導員

対象 4・5歳児 **受講料** 15,000円

定員 30名

※詳しくは、「まなびの玉手箱」をご覧ください。

春の合同お茶会

～気軽に楽しむ和の心～

日時 4月29日(火・祝) 午前10時～午後3時

場所 坂城町文化の館

茶券 1,000円(当日券1,200円)

茶席 本席：裏千家 野点席：表千家

申込先 教育文化課生涯学習係(文化センター内)
82-2069



二十歳のつどい 実行委員募集

8月15日(金)に開催を予定している「第70回坂城町二十歳のつどい」の実行委員を募集しています。一生に一度の二十歳の思い出をつくりませんか?

応募やお問い合わせは、坂城町公民館(文化センター内) 82-2069 までご連絡ください。

該当者は、平成16年4月2日から平成17年4月1日生まれの方です。

戦争体験談などの 原稿募集

今年は、戦後80年の節目の年です。平和の大切さを再認識するため、戦争体験談などを募集しています。

戦中、戦後に苦難の道を歩まれてきたご自身やご家族などの貴重な体験を後世へ伝えるため、公民館へ投稿してください。

ライフ・ステージエコー 実行委員募集

令和7年度のライフ・ステージエコーは11月29日(土)坂城テクノセンターで開催を予定しております。

本コンサートの企画・運営にご協力をいただける実行委員を募集しております。

応募やお問い合わせは、教育文化課生涯学習係(文化センター内) 82-2069 までご連絡ください。

説 開 館 歌

11月末に坂城コーラスの演奏会が南条小学校音楽堂で行われました。坂城コーラスは今年で創立46年になり、坂城町文化協会に所属しています。また、さかきふれあい大学の公民館文化講座の一つでもあります。今回の演奏会は、コロナ禍を経て5年ぶりの開催となりました。「大切なこと、音楽で伝えたい」をテーマに、歌を通して何が本当に大切なのかを、それぞれの皆さんの心で感じ取って頂くために、組曲「無言館」をメインに据え、混声、男声、女声合唱の演奏が行われました。

男声合唱はふるさとに思いをはせ「赤とんぼ」等を、女声合唱は大切な人への思いを寄せて「涙そうそう」等を、混声合唱では明日への希望を胸に「群青」、そして、平和への祈りを込めて、組曲「無言館」を演奏しました。この演奏会では、ボランティアの皆さんが協力し、受付、駐車場等の役割を受け持つくださっており、みんなで創り上げた演奏会でした。

音楽堂いっぱいに来場された皆さんからは「感動して涙が出ました」「団員の皆さんが楽しんでいる姿が素敵だった」「ストレッチに心に響きました」等、たくさんの感想をいただきました。演奏会は終わりましたが、坂城コーラスの活動は、次の演奏会に向けてもう始まっています。